

日刊 動労千葉

84. 5. 15

No. 1640

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

5/12 動労千葉労働学校開校



「敵に勝つためには敵以上に勉強して闘わねばならない」、あいさつに立つ中野委員長。（左より、高島学長、浅田顧問、鎌倉教授）

五月十二日、「動労千葉労働学校」が開校し、第一期生五二名が出席して「開校式」が行われ、全参加者はさっそく始められた第一回講座を真剣なまなざしで学習していました。

第一期生五二名が出席して「開校式」

「動労千葉労働学校」は、侵略戦争へ動員するための排外主義的、企業防衛主義的イデオロギー攻勢の激化の中で、これら反動イデオロギーのうちかつ階級的思想と理論を身につける目的をもって設立されました。多彩な講師陣の協力を得て、動労千葉組合員と友誼単産の労働者計五二名を第一期生としてめでたく開校を迎えました。

十三時に「開校式」が始まり、動労千葉を代表して中野委員長は、「八〇年代中期に入り本格的闘いが始まろうとしているが、敵の攻撃にうちかつためにマルクス主義の勉強は不可欠です。権力を打倒するためには、彼等以上に勉強し、そして闘わねばなりません。中曽根の軍大化・改憲攻撃に労働運動は先を争って右へ行くという状況を打破しようではありませんか。多士多彩の講師陣により、水準の高い内容になると思うが、これに広えて学習してほしい。執行部を先頭に労働学校を成功させる基礎をつくりたい」とあいさつしました。

高島学長、浅田顧問が「労働学校の任務」を説く

「動労千葉労働学校」の学長に就任された高島氏は、氏が三〇年前に書かれた「経済を勉強する若い人のために」という文章を参考に、「勉強はどうすべきか」「本はどう読むべきか」を話され、最後に「思想・理論がなければどんな組織論も空疎になります。動労千葉労働学校はみなさんのこれからの運動に役にたつでしょう」と述べられました。

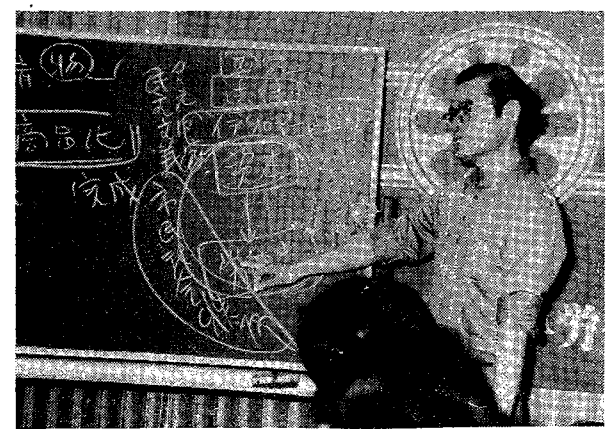
また、浅田顧問（立正大学教授）は、「労働学校」の任務について二点にわたって述べられました。

それは、第一に「賃上げには企業が繁栄しなければ」「国鉄は危機だから働き度を高めなければ」との思想に対決し、「危機こそ体制変革の好機」ととらえる思想を学ぶこと。

第二期に、中曽根の攻撃になすすべを失った革新政党や労働運動に欠落しているものは思想である。

「資本主義とはどういうものか」「労働者、社会とはどういうものか」の原点を学び、日本の労働運動を担う有能な人材を自らがうみだしていかねばならない、ということとです。

生徒に好評だった鎌倉教授の講座「資本主義の仕組みと矛盾」



「労働者の思想を学びたい」 入校生が決意表明

最後に、入校生代表のあいさつをうけました。組合員を代表して、津田沼支部からの入校生が、「労働者の思想、ものの見方・考え方を原点にかえて勉強しなおし、労働者の解放をちとていきたい。一年間しっかりと勉強し、中曽根の攻撃をはね返し、動労革マルを叩きだすためがんばります」と決意を述べました。

また、友誼単産からの入校生を代表して、自治労の仲間から「動労千葉で労働学校が始まるということを知り、少しでも勉強したいと加えていただき、ありがとうございます。労働者の立場にたつて組合運動をどうやっていくのか、頭で学び身体で闘う」を学んでいきたいと思ひます」と決意表明しました。

「開校式」終了後、十三時四〇分より直ちに第一回講座が開かれ、鎌倉孝夫・埼玉大学教授による第一回科目・「資本主義経済の仕組みと矛盾―経済原論」の講義が行われました。平素は聞きなれない言葉などもでてくる講義を、氏の丁寧な解説をうけつつ、全生徒は熱心にメモをとりながら勉強しました。

第二回講座は次のとおりです。

日時	六月二日(土) 十三時〜十七時
科目	帝国主義と現代
講師	筑波大学教授 降旗節雄氏

なお第一回科目のレポートを提出のこと。